

平成 22 年 5 月 28 日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2007～2010

課題番号：19330072

研究課題名（和文）日本の資本市場の変革に伴う企業価値評手法の再検討

研究課題名（英文） Developing new methods for valuation of Japanese firms

研究代表者

堀 敬一（HORI KEIICHI）

立命館大学・経済学部・教授

研究者番号：50273561

研究代表者の専門分野：金融経済学

科研費の分科・細目：財政学・金融論

キーワード：ファイナンス、確率過程、コーポレート・ガバナンス

## 1. 研究計画の概要

（1）研究の学術的な背景：本研究の目的は、資本市場の急速な発達を踏まえ、従来の企業価値の評価方法を、ファイナンスに関わる諸分野の成果に基づき発展させ、さらに2000年代の日本に適用することである。

（2）具体的な研究課題：本研究における具体的な研究課題は以下の通りである。企業価値をどのように評価するのか、リスク・マネージメントによって不確実性にどのように対応すべきか、企業価値を最大にするためのコーポレート・ガバナンスはどのようなものか。

（3）本研究の学術的な特色：以下の2点である。確率過程論からベンチャーファイナンスまでを網羅する、複眼的な視点で分析すること、2000年代の日本企業を分析の対象とすること。

（4）研究体制：上記の研究課題に応じてグループを編成し、各グループごとの個別研究を進展させるとともに、最終的にはグループ間での共同研究を行う。

## 2. 研究の進捗状況

（1）論文等の公刊：過去3年間の研究成果の多くを国際的査読付学術雑誌に公刊した。具体的には、Journal of Economic Dynamics and Control, Journal of Regulatory Economics, Journal of Financial Research, China Economic Review, Probability Theory and Related Fields, Methodology and Computing in Applied Probability, Math. And Computers in Simulation, Monte Carlo Methods and Applications などの雑誌に論文が公刊され

ている。これ以外にも日本語の査読付学術雑誌に論文が公刊されたり、著書が出版されている。

（2）研究会等の開催：研究成果の公刊に先立ち、いくつかの研究会・シンポジウムを開催した。具体的にはイタリアのフィレンツェ大学やオーストラリアのモナッシュ大学との共同研究集会を開催し、立命館大学に限らず当該分野の国際的な専門家を招いて研究発表を行った。また国内の研究者を招いたセミナー、コンファレンスも定期的で開催されている。

## 3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

（理由）「2. 研究の進捗状況」で述べたように、これまでの研究成果の多くが国際的な学術雑誌に公刊されている。また国際的なシンポジウムも開催し、研究成果及び立命館大学におけるファイナンス分野の研究の質の高さを認知させることにも寄与している。こうした研究会では文理を問わず研究成果の報告が行われている。しかし文理融合的な当該テーマに関わる研究成果を公刊できていない点が今後の課題である。

## 4. 今後の研究の推進方策

これまでと同様に、研究成果を査読付の学術雑誌に公刊することと、セミナーやシンポジウム等を開催し、国内外の専門家との研究交流を図りつつ、研究成果のアピールに努めたい。データの整備等で比較的時間を要する、日本の企業を対象とした実証研究に関しても22年度が最終年度ということもあり、論文として集約する予定である。

5. 代表的な研究成果  
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 20 件)

Keiichi Hori and Hiroshi Osano、Optimal Timing of Management Turnover under Agency Problems、Journal of Economic Dynamics and Control、査読有、巻：33/12、2009、1962-1980pp

Jiro Akahori、Yuri Imamura and Yuko Yano、On the pricing of options written on the last exit time、Methodology and Computing in Applied Probability、査読有、巻：11/4、2009、661-668pp

S.Ogawa and H-L Ngo、A central limit theorem for the functional estimation of the spot volatility、Monte Carlo Methods and Applications、査読有、巻：15/4、2009、353-380pp

Keiichi Hori and Keizo Mizuno、Competition Schemes and Investment in Network Infrastructure under Uncertainty、Journal of Regulatory Economics、査読有、巻：35/2、2009、179-200pp

S. Sasaki, S. Xie, F. Ohtake, J. Qin, Y. Tsutsui、Experiments on risk attitude: The case of Chinese students、China Economic Review、査読有、巻：19、2008、245-259pp

[学会発表](計 15 件)

Jiro Akahori、A Heat Kernel Approach to Interest Rate Models、Congress: Stochastic Analysis for and from Finance、2009/08/05、京都

Jiro Akahori、Action of affine Lie algebras on Wiener functionals、Workshop : "Computational Finance"、2009/08/11、京都

Keiichi Hori、Executive turnover and compensation in growing or declining firms、First Florence - Ritsumeikan Workshop on Finance and Risk Theory、2009年3月12日、フィレンツェ(イタリア)

Nobuhiko Hibara、Service Quality Measurement and Performance Assessment in Financial Service Sector- Toward More Efficiency and Customer Satisfaction、Spring Singapore-APQ、2008年11月、シン

ガポール

J. Qin、Regret Aversion and Information Cascade in a Sequential Trading Model、Daiwa International Workshop 2008、2008年8月5日、東京

[図書](計 1 件)

二神孝一・堀 敬一、有斐閣、『マクロ経済学』、2009年、455ページ

[産業財産権]  
出願状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

[その他]